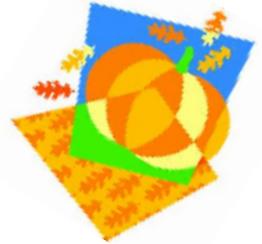




TAKING OFF

大阪学院大学／大阪学院短期大学
国際センター ニュースレター
Vol. 14 Fall, 2011



1. 第50回岸辺祭～奏～



＜チーム名と販売品目＞

元気: トッポキとホットク

インターフード: フィンランドのスープ&ドイツのソーセージ

焼きたて!ヨーロッパ&アメリカ: フレンチトースト&パンケーキ

ピース: クレープ



10月21日から23日まで開催された第50回岸辺祭に、今年も海外からの留学生が国際通りと名づけられたエリアに4つのブースを出店しました。日本に来て2ヶ月ほどの彼らが、1ヶ月近くかけて一生懸命準備をしたかいがあって、岸辺祭模擬店部門の最優秀賞をいただきました。ここでは、チームリーダーを務めた留学生のコメントを掲載します。

なお、今回の売上金はすべて東日本大震災の被災者の方々への義援金として寄付しました。

Alexander T. Uder
トリア大学(ドイツ)

準備期間中は、まずはどんなコンセプトにするか、何をどれぐらい売るのがか、また作るのにどんな材料が必要で、いくらぐらいかかるのか、そして誰が何をやるのかなどを決めました。何度もミーティングを重ねましたが、みんなのスケジュールが合わず、全員揃うのはとても難しかったです。ですが、みんな柔軟に対応してくれたので、当日までにすべてを決めて、岸辺祭に臨むことができました。

岸辺祭の間も、ブースで準備をする人、掃除をする人、料理をする人、呼び込みをする人など、それぞれの役割に一生懸命取り組みました。ここでも、チームメンバー全員がただ自分の役割をこなすだけでなく、臨機応変に動いてくれました。また、ISST(留学生をサポートするOGU学生のボランティアグループ)のメンバーと留学生が仲良く、協力して取り組めたことも良かったです。

今回岸辺祭に参加できたことはとても意義がありました。まず、義援金のためのお金を集めること

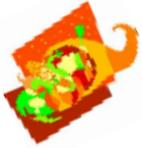
で、人のためになるような良いことができました。そして、企画、運営、装飾、PRなどたくさんことを学び、すべてを自分たちでやり遂げたことも大きな経験となりました。また、たくさんの人たちと知り合いになり、単なる顔見知りだった人々と友達にもなれました。この経験は、きっと今後の人生でも役立つと思います。

これからOGUに来る留学生のみんなにも、この岸辺祭に取り組むことを勧めます。

Martin Bureš
プラハメトロポリタン大学(チェコ共和国)

大阪に着いた瞬間から今日まで、それぞれが日本文化の洗礼を受け続けてきましたが、それは岸辺祭への参加とは比べものにならないものでした。私たちが感じた雰囲気、OGU学生、ISSTメンバー、国際センターのスタッフ、I-Chat Loungeのスタッフそして世界中から集まった留学生が作り出した岸辺祭は、数行の文章では到底言い表すことはできません。この素晴らしいイベントに参加できたこと、そしてすべてが成功に終わったことをとても嬉しく思います。この岸辺祭は、私たちがここでの留学生活を終えて、帰国する時に、生涯忘れることのできない思い出としてそれぞれの胸に刻まれたことでしょう。

岸辺祭は、3日間とも朝から夕方まで、たくさんの人たちがブースに来てくれました。OGUの素晴らしいチアリーダーたちのパフォーマンスに始まり、3日間にわたって少なくとも数十のブースが出店されて、色々な種類の食べ物売られていました。きっとみんな何かしら気に入ったもの、興味深いものに出会えたのではないのでしょうか。この岸



辺祭でISSTメンバーと一緒に小さなビジネスを企画・運営できたことも、とても楽しく、そして学びの場になりました。どれほどの人が、私たちのように、大勢の人が一体になって一つのことに取り組んだ経験があるでしょうか。留学生の4つのブースは、全員が一生懸命自分の役割を担い、横でぼーっとしている学生は一人もいませんでした。また、岸辺祭では、ブース運営に加えて、学生のみならず、地域の人たちと話す機会も多くありました。流暢な日本語で話ができる留学生は少ないですが、みんな少しでも日本語で話をするようにがんばっていました。

最後に、私たちの努力は、岸辺祭の最優秀

賞という形で実を結び、閉会式にいた全員が、拍手喝采で喜び合いました。しかし、OGUのスタッフ、岸辺祭に関わってくださったすべての方々のサポートなしには、この賞をもらうことができなかったことを付け加えたいと思います。ここで書いたことは、岸辺祭のほんの一端に過ぎません。もっと話を聞きたいと思われた方は、私たち留学生に何でも聞いてください！

※残り2名のチームリーダーのコメントは国際センターBlog～Taking Offに掲載していますので、こちらもぜひご覧ください。

<http://inoffice.blog102.fc2.com/>



国際通りの様子

タイ洪水被害への 募金活動実施！

国 際センターは、本学学生会の協力を得て、岸辺祭期間中にタイの洪水被害への募金活動を行いました。現在、本学はタイにあるバンコク大学とコンケン大学の2大学と提携関係にあり、学生交換を行っています。今年も3月にはタイ・ワークキャンプ(ボランティア研修)、9月にはタイ・ホスピタリティーツーリズム研修を実施し、計14名のOGU学生が参加しました。また3月の東日本大震災発生直後、バンコク大学から被災地に向けて多くの義援金をいただきました。このように本学とタイの間には、深い交流関係があり、今回は私たちがタイの方々のために何かできないかということで、この募金活動を行いました。3日間という短い期間ではありましたが、留学生ブースに立ち寄られた多くの方々にご協力いただき、また留学生たちも売上の一部を寄付してくれました。集まった募金の合計79,752円は、2つの提携大学を通して被災地へ送らせていただくことになっています。

岸辺祭の売上を東日本大震災の義援金に！



留学生たちからのメッセージ：

がんばれ、東北 Don't give up, Tohoku

日 本国内では、3月に発生した東日本大震災への支援が継続して行われていますが、長期的な支援が必要なことは必至です。本学の学内でも募金活動を行いました。発生直後から、海外の多くの提携

大学でも日本人留学生を中心とした募金活動が行われました。また大学間交流を通して義援金をいただくなど、海外から多くの支援をいただきました。国際センターでも微力ながら何かできることはないかと考え、岸辺祭に参加した留学生たちに呼びかけました。岸辺祭での売上を被災者の方々への義援金として寄付したいという国際センターの意向を伝えたところ、彼らは快く賛同してくれました。岸辺祭の期間中、留学生とサポートに入ったISSTメンバーは、少しでも売上を伸ばそうと頑張り、3日間で20万円以上を売り上げました。最終的に合計207,506円を、日本赤十字を通して被災地への義援金として寄付させていただきました。

この場をお借りしてブース売上にご協力いただきました方々に、お礼を申し上げます。ご協力本当にありがとうございました！

2. 卒業生の今:ESCE大学院 山本 雄仁(2011年経済学部卒)

前号のニュースレターで、交換留学後のオプションや進路について取り上げましたが、今号では実際にOGU卒業後に提携大学の大学院に進学した山本雄仁君を紹介します。山本君は、2011年3月に経済学部を卒業し、8月からフランスの提携大学の一つであるESCEに進学しました。本学在学中は、ハワイ大学とミシシッピ大学での短期英語研修、アメリカのセント・トーマス大学への2学期間(約10ヶ月)の交換留学、ケンブリッジ大学クイーンズカレッジ短期留学に参加するのみならず、海外からの留学生たちとも積極的にコミュニケーションを取るなど、充実した学生生活を送っていました。現在は、将来は海外で仕事をするという夢を持ちながら、フランスで一生懸命ビジネスの勉強をしています。

Bonjour! 私は現在フランスのパリにあるESCEというビジネススクールでマーケティングとマネジメントを勉強しています。授業は基本的に1コマ3時間で行われており、大体のクラスには様々な国の学生が20人から40人程度いて、とても興味深いです。各々の学生が違う価値観を持っており、自分とは違う視点で物考える人々と接することで、自分自身の物考える幅が広がります。授業内容はプレゼンテーション、グループワークそしてケーススタディといったとてもアクティブな授業が多いですが、中にはレクチャーだけといった授業もあり、それは時々とても退屈に感

じる事があります。フランスに来て思った事は、ヨーロッパの学生はこの国から来ている



ドイツ人の元交換留学生を訪問して(本人右)

でも、本当に英語が上手いです。もちろん彼らの言語が英語と近いという理由もあると思いますが、中にはアクセント(なまり)もない、まるでネイティブの様な英語を話す学生もいます。また、ここに来て英語の大切さを再確認しました。

私の大学は、アメリカの大学の様なキャンパス型の大学ではなく、寮もないので、アメリカに比べると授業外での学生同士のふれあいは少ないです。しかし、授業で仲良くなった友達と校内のカフェへ行ったり、外に出て飲みに行ったりとふれあう手段はいくらでもあるので、そこまで問題にはなりませんし、かえってそっちの方がパリを探索する良い機会にもなります。



パリで生活していると日本のサービスがとても恋しくなります。自分がマネージメントを勉強しているだけに、カスタマーサービスについて、色々と思う事もありますが、そこは割り切って生活しています。また、私の周りの友達、よくフランス人はとつきにくいと言いま

すが、私はそうは思いません。彼らはとても親切で、日本から来た私を助けてくれます。さらにフランスでは日本に興味を持ってきている人が多いように感じます。興味の内容が漫画であれ、文化であれ、日本、日本人に興味を持ってきているという事は、日本人として

とても嬉しいですし、有り難いと思います。

最後に、この2年間を充実したものに、自分の満足の行く人生を歩みたいですよ！

追伸：

質問(何でも結構です)、意見がありましたら国際センターを通して私にメッセージを下さい。

3. ケンブリッジ大学クイーンズカレッジ短期留学

羅 晶 (大学院法学研究科)

今 年9月に、2週間のイギリスのケンブリッジ大学クイーンズカレッジ短期留学に参加しました。この留学に参加するためには、事前にケンブリッジ大学のミル



(上) クイーンズカレッジのキャンパスで
(下) 教室で担当のミルゲート教授と本学の
シャクルトン准教授と一緒に(本人中央)

ゲート教授が担当されている経済学特別講義を受講しなければいけないのですが、この授業を履修することにしたのは、若いうちにできるだけ多くの知識を得たかったのと、久しぶりに英語の力も鍛えたいと思ったからです。

イギリスに行く前は、私は日本以外海外に行ったことがありませんでした。英語も中国で習いました。つまり、私にとって、イギリスは初めて行く英語圏でした。これまで英語が上手ですと褒められたことはありますが、見知らぬ国に行って、この私で本当に大丈夫かなと心細く、不安でした。

ケンブリッジ大学での勉強が始まり、短い2週間でしたが、いろいろ勉強になりました。向こうでは、ケンブリッジ大学の学生と同じ学校生活を過ごしました。勉強も生活もほとんど学内で行われ、食事の時には、先生たちと話し合えます。授業中も、自由な雰囲気ですディスカッションをします。先生の意見は絶対正しいわけではなくて、学生は自分なりの考えがあれば発言をして、先生と議論してもかまいません。分からないことがあったら、食事の時に、先生に聞くこともできます。一日の授業が終わって、先生たち

と近くのパブに行き一緒にビールを飲んだり、色々なトピックについて話し合ったりすることもありました。

カム川で船を漕ぐのも授業の一環です。美しい景色の中で、みんな順番に船を漕ぎながら、先生からケンブリッジ大学の各カレッジの説明を聞くことができ、すごく楽しかったです。

学外での勉強も行われ、先生と一緒にロンドン市内のイングランド銀行博物館へ見学に行きました。そこで、映画やゲームを通じて、インフレーションやデフレーションなどについて学び、授業で勉強したことをより良く理解することができました。

勉強以外にも、このプログラムの開始前後に一人旅をし、スコットランド、湖水地方などに行きました。旅先で友達もでき、自分の語学力にもだんだん自信が持てるようになりました。自分の能力を信じて、これからもこの自信を持ち続けていきたいです。

ケンブリッジ大学の研修を通して、一番大事なのは自分なりの考えを持つことだということに気づきました。これからの勉強にも、自分でよりよく考えながら取り組んでいこうと思います。

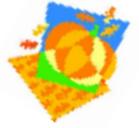
4. 留学生の大阪府立北淀高校訪問:Nathalie Bresan (トリア大学)

さ まざまな国から来た留学生9名が、大阪府立北淀高校を訪問しました。上新庄まで電車で行き、そこから高校まで徒歩で行きました。このイベントには、OGU以外の大学からも外国人留学生が参加していたので、他大学からの留学生と図書室で合流しました。学校の中でスリッパを履かなければいけなかったことは、全くの新しい経験でした。私の国ドイツでは見たこともありません。担当の先生のスピーチが終わると、参加した留学生全員がいくつかのグループに分けられ、それぞれの教室へと向かいました。私のグループが2年3組の教室に行くと、担任の先生が私たち4人を高校生たちに紹介してくださいました。生徒たちはすでに4つのグループに分けられていて、私が入ったグループはとても良かったで

す。まず、彼らが準備した単語を私がドイツ語でどう言うかを教えました。その後はゲームをしました。みんな楽しんでいました。その教室で2時間ほど過ごした後、講堂に移動し、生徒たちが準備してくれたショーを見ました。最初は、素晴らしい和太鼓の演奏があり、次は一人の生徒が、剣玉と呼ばれるものでパフォーマンスを見せてくれました。さらに4人の生徒が柔道の技をいくつか見せてくれました。そして、今まで聞いたビートルズのカバーバンドの中でも上位にランクされるぐらい上手いバンドが登場し、さらに2人の女性ボーカルのいる大人数のバンドが登場しました。どれも驚くほど素晴らしく、質の高いものでした。この訪問を通して、日本の高校生について知ることができ、とても楽しいひと時を過ごしました。



(上) 高校生たちとの交流
(下) OGUから参加した留学生9名(本人後方
右から3人目)



5. 英語って本当に難しい！？ TOEIC345点が740点に！： 原 明日香（経済学部2年次生）

何か新しいことを始めるときには必ず「壁」があるはず。私もそうでした。それまで英語なんてと思っていた私が本格的に英語の勉強を始めたのは、大学に入ってから5ヶ月ほど経った頃です。そのときには既に他の学生からかなりの遅れを取っており、大学に入って初めて受けたTOEICが345点。文法の知識も、リスニング力も欠けていた私は、何から始めたら良いのか見当もつきませんでした。このとき私はまさしく「壁」にぶつかりました。

自分の将来の目標を決めてから、全てが変わったように感じます。私の目標、それは「英語を使って仕事がしたい」ということです。目標を決めれば、後はそこから逆算して最短距離を見つけるだけです。TOEIC900点をいつまでに取るのか、TOEFLはいつ受験するのか、留学にはいつ行くのかなど、英語に関連したことを

次々に考えました。そこから地道に英語の基礎を勉強し、2年次生になった頃からI-Chat Loungeに通い始め、英語のネイティブのスタッフや海外からの留学生と話す時間を作りました。そうして行く中で“話せない自分”に気付くことができ、またそれが次のモチベーションにつながっていきました。I-Chat Loungeのような場所が大学内にあるということは、とても恵まれていると思いました。それ以外にも、自宅や学校で、空いた時間はひたすら英語の問題集と向き合い、英語で経済や国際関係の文献も読むようにしました。これは今も続けています。

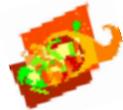
現時点でのTOEICのスコアは740点。決して高い点数ではありませんが、「壁」にぶつかっていた頃に比べれば、多少成長したと思います。英語に限った話ではありませんが、「どうせやるなら凄いて言われたい」という思いが少なからず誰



休み時間に友人と(本人右)

にでもあるはず。それはとても大きなことで、それに向かって努力することで、劣等感を克服することができ、さらにモチベーションを高めることができると思います。

今は英語に焦点を当てていますが、英語は単なるツールでしかなく、英語プラス何かの知識が必要だと思っています。これからも努力を続け、いつかは必ず海外で働くつもりです。



6. 派遣留学生レポート～メディシンハット大学（カナダ）： 渡邊 茜（経営学部ホスピタリティ経営学科3年次生）

私は9月からカナダのメディシンハット大学に留学しています。大学では、ESLという英語集中プログラムにいますので、クラスメートはアジア人がほとんどですが、メキシコ人やコロンビア人もまれにいます。新しい文化とも触れ合うことができます。留学生の間では、ついつい同じ国の学生同士が集まって、母国語を話しがちになるので、その誘惑に打ち勝つことは私たちにとってとても大変なことです。お昼の時間は、「母国語を話す1ドル払う」などルールを決めて、ゲーム感覚で英語を話すようにしています。

こちらにきてもうすぐ2ヶ月が経とうとしているのですが、なかなか自分の語学力が伸びないと感じます。未だに言われたことが理解できなかつたり、勘違いをしたり、言いたいことがうまく伝えられなかつたりと、問題が毎日のようにあります。また、文化や習慣の違いなどで、戸惑ったりすることも多々あります。主な交通手段であるバスが時間より遅れてくるだけならまだしも、時間よりも早く行ってしまったり、降りる時にボタンを押してもバスが止まってくれなかつたり、バスが予告なく運休するなんてこともあります。日本

の交通機関がいかに正確に運行しているかがよくわかります。それだけでなく、こちらで生活していると様々なことから、日本人の器用さや繊細さに気づかされます。

文化的な面では、イベントを盛大に祝う習慣があり、私にとってはとても興味深いです。最近ではハロウィーンがあり、ホームステイ先の4、7、10歳の子供たちと一緒に近所の家を周り、お菓子をもらいに行きました。これからクリスマスがあるので、今から楽しみです。

語学力の成長の無さに涙しそうになることもあります。弱音を吐く暇があるなら英語の学習に時間をあてろ」と自分に言い聞かせています。辛いときもありますが、楽しいことの方がはるかに勝っているので、悩むことなく過ごしています。過去を振り返った時に、この留学が役立っていると思えるように、残りの短い期間も一杯勉強や遊びに励みたいです。



(上) ハロウィーンの仮装大会で
(下) ESLのクラスメートたちと
(本人左から2人目)



大阪学院大学／大阪学院短期大学 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号
TEL: 06-6381-8434 (代表)
FAX: 06-6381-8499
Email: inoffice@ogu.ac.jp



国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>